

① 若者や女性、ジビエハンター等新たな捕獲の担い手の取組事例

県域の若手農家ネットワークを生かした鳥獣被害対策

事例対象地：熊本県

団体：くまもと☆農家ハンター

H P : farmer-hunter.com/

キーワード：

若者

農家ハンター

1. 概要

くまもと☆農家ハンターは、地域に根ざした若手農家により、農家ハンターを立ち上げ、ICTを活用した箱わなによる捕獲を実施。クラウドファンディングによる資金調達や、積極的な広報活動による担い手の確保に取り組むとともに捕獲実績は着実に増加させている。

2. 取組の経緯

きっかけは、農家のつぶやきに感じた「農産物の危機と離農への心配」。農家は独自の対策をしても効果は少なく、イノシシの食害にあった。若手農家が語り合う中で、猟師ばかりに頼らず、農家自身が一歩を踏み出せないかと考え活動を進める中で、防御と捕獲の現場における「プレーヤー」の不足に気づき、農家の自衛団としての「くまもと☆農家ハンター」を結成した。

3. 実施体制

平成28年7月に22人で農家ハンターが発足する。活動体制は、代表者はいるもののメンバー全員がリーダーであり、サポーターでもある。それぞれの立場で、活動を支え盛り上げる。

4. 取組のポイント

●ICTの活用

➡ICTを活用した箱わなに取り組むことにより、見回りの負担を軽減して本業への影響を少なくするとともに、メンバーのITリテラシーの向上、農業経営力アップが期待できる。

●クラウドファンディングを活用した箱わな購入資金の確保

➡資金調達のほか、地域の仲間づくり、応援団づくりが期待できる。

●繋げて元気をだす広報活動

➡「農家ハンター☆サミット」や積極的にHPやSNSで発信することにより、農家ハンター間の交流や技術向上とともに、幅広い協力や応援の輪を広げ、多くの人を元気づけて、捕獲などの獣害対策における新たな担い手の確保を進める。

●ブランディングと感情的価値

➡商品の裏にあるストーリー性を大切にし、共感が得られる商品へと価値を高める。

●「無駄ゼロ」の循環型モデルを目指すジビエ加工場「ジビエファーム」

➡「捕獲個体のフル活用」を目指し、ペットフード化や有機肥料・飼料化などに取り組む。